

当会会員の（株）電制（江別市）が、平成30年12月25日(火)付の、日刊工業新聞に紹介されました。



電制（北海道江別市、田上寛社長、011・380・2101）の電気式人工喉頭「ユアトーンII写真」が発売から2018年で20年を迎え、着実に普及している。喉頭がんなどで声を出せなくなった人の発声を補助する機器でこれまで約1万5000台を販売した。

発声補助、使い勝手向上

電気式人工喉頭「ユアトーン」

電制



ユアトーンは声帯の代わり振動音を作る機能を持つ。利用者は音も響くなどの部分にユアトーンを押し当てて話す。喉頭がんなどにより

る喉頭の摘出手術は国内で年間約2000件。うち半数以上の方がユアトーンを利用するという。現製品は3代目で17年10月に販売。普段使わないスイッチを裏側に収納するなど使い勝手を良くした。18年11月からネット販売も始めた。販売担当の羽生優香さんは「気管切開や筋萎縮性側索硬化症（ALS）でも使えるので多くの方に知ってほしい」と話す。

（札幌）